



6月学年団だより

香川県立高松北中学校 3年団

2023. 6. 1

平年より1週間ほど早い梅雨入りとなりましたが、天気の良い日にはさわやかな風や鳥のさえずりが教室に流れてきます。体育祭や校外学習は、よい天気恵まれて無事に実施することができました。のどかに季節が流れていく一方で、中学3年生の生活は少しずつあわただしくなってきます。学習面では、今年度中に7回ある「学習の診断」の1回目が7日（水）に始まります。部活動では、中学校生活のラストを飾る総合体育大会、またコンクールや各種大会に向けて、ハードな練習に取り組んでいることでしょう。我々教職員一同は、自分の目標に向けて頑張る子どもたちをしっかりと応援していきたいと思います。

1. 体育祭

中学校生活最後となる体育祭が、晴天の中、3年ぶりに通常規模で開催されました。当日、よさこいの入場隊形に移動する前に清水先生からお話をいただき、それに感化されたように熱のこもったよさこいを披露してくれました。練習のときよりそれぞれの声も出ており、何といても3年生の一体感を感じる演技になっていました。演技を終えた子どもたちの表情に、晴れやかな達成感を感じ取ることができました。昨年度3学期から、また2年前からのご指導をいただいた造田先生、平井先生、蓮井先生、清水先生、ありがとうございます。また、それぞれの競技で頑張っている子どもたちの姿にも感動しました。“Memories”と題した3年団種目は、楽しんでご覧いただけたでしょうか。私たち3年団教員も楽しませてもらいました。よい思い出のひとつとなりました。彼らと一緒に学校生活を送れるのは、あと9か月ほどとなってしまいました。残りの期間、より多くの楽しい思い出を作っていけるように関わっていきたいと思います。



2. 校外学習（広島）

第49回先進国首脳会議（G7 広島サミット）直後ということもあり、とても多くの人たちが平和記念公園や資料館を訪れていました。小中高の学校団体も多くいましたが、外国からの人々の姿が目立ちました。平和を求める人々が国内外にたくさんいることを実感しました。資料館に入るとすぐに、当時原爆が落とされ建物が一瞬で崩れていく様子を、プロジェクションマッピングで表現している展示物がありました。見学を進めていくと、『「助けて」「水をください」動く気力もない母親の胸にすがる幼児』や『「目を開けて、目を開けて」子どもの名前を呼び続ける半狂乱の母親』などの、当時の人々の助けを求める叫びや悲しみが表現されている絵や、原爆によってぼろぼろになってしまった服や溶けてさび付いた三輪車、等が展示されていました。多くの尊い命をいとも簡単に奪った原子爆弾。何ともいえない悲しい感情になりました。

みんな同じように温かい血が流れている人間です。国が違っても、話す言葉や文化が違っても、心はつながり合えるはず。相手の心に共感しようとするコミュニケーションが大切だと痛感します。そして、一人一人が平和を望むことで、戦争を起こそうとする力を食い止めることができると信じています。「原爆の子の像」にみんなで折った千羽鶴を奉納してきました。もう二度と同じことが起こらないように、戦争がこの世の中からなくなることを祈りながらみんなで千羽鶴を折っていました。以下は、生徒たちの感想です。

・戦争は人を無差別に攻撃し、傷つけるだけでなく、その後も戦争で負った傷や後遺症で人を苦しめ続けるということを学びました。戦争になると物価が上がったり、学校に行けなくなったり、常におびえながら暮らすようになり「普通の生活」ができなくなります。武力を行使するのではなく、話し合いで解決しなくてはならない。誰にでも平等に接すること、他人を思いやり気遣った言動をとることが、平和のために今の自分にできることだと考えました。

・たくさんの方がいれば、その人の数だけの考え方があ。その考えの違いから争いが起きてしまうことを考えると、自分がその違いを理解し、相手にも自分の考えを聞いてもらうことでお互いに分かり合い、平和な世の中につながっていくのではないだろうか。自分と考えが違うからと離れていくのではなく、上手に接点を見出していこうと思いました。

・資料館内では、多くの外国の方々が見学をしていました。すごく驚いた表情で展示物を見ている人や、展示物の前で涙を流している人もいました。日本で起こったことに関心を持ってくれ、深く心にささるものがあつたのかと私も涙が出そうになりました。核問題は被爆国である私たちだけでなく、全世界共通の課題なので、日本から広島について発信していくことは大切だと考えます。そのためにもまずは、私たちが正しい知識を身に付ける必要があります。だから、今度は家族と一緒に広島平和記念公園や資料館を訪れたいと思います。

・「違いを認め、相手を受け入れること」「思いやりの心を持ち、相手を理解すること」が、平和について考えたときにこれから自分ができることだと思った。当たり前に行っていることが幸せだと改めて知ることができた。戦争の中で暮らしている人たちは、夢を持つことさえ許されなかった。だからこそ、原爆の恐ろしさから目を背けずに、私たちがきちんと理解して後世につないでいくことが大切だと思う。過去に起こったことは変えられないが、未来は私たちが創っていくもの。私たちは平和の尊さを、身近なところから見出していきたい。みんなの共通理解や思いがないと、平和は実現しない。私は何事にも感謝をして、寛容な心をもって、日常生活を送るようにしたい。

・原爆ドームや爆心地、原爆の子の像、原爆死没者慰霊碑、広島平和記念資料館の数々の展示等、今まで教科書や資料集の中でしか見たことがなかったものを、実際に自分の目で見て、より身近に感じました。実際に書かれた手紙、着ていた服、当時の写真等を見ると、平和な世の中を求めながら、亡くなっていった人たちの思いを感じました。「私たちは、確かに平和な世の中を築いていきます。」と心の中で約束しました。

・今回学んだことをふまえ、より多くの人に原爆の恐ろしさやそれがもたらす被害について、知ってもらふ必要があると思いました。たった一つの原爆だけど、何十年にもわたって苦しみ続けなくてはいけない人々、生きたままで焼かれていった人々、家族や友人を奪われた人々等、多くの人が不幸になってしまったことを、しっかりと後世にも伝え、二度と繰り返さないようにしなければいけません。核兵器を製造したり、使用したりすることは絶対にやめるべきです。誰かが持っていたら、またヒロシマのような悲惨な出来事がどこかで起こる可能性があります。戦争している国があっても、原爆を落としてやろうと思わせないためにも、日本から原爆の悲惨さや苦しさをしっかりと伝え、世界の一人でも多くの人々に平和を望んでもらわなければならないと思いました。



千羽鶴実行委員会



平和集会



1分間の黙祷



千羽鶴奉納



被爆アオギリ二世

(この苗木を学校にいただきました。)

3. 学習の診断・進路説明会

6月7日(水)の一日で5教科実施します。3年生はこの診断が7回あります。次回は9月4日(月)の予定です。回を追うごとに出題範囲が広がり、3年間で学んだ内容をどれくらい身につけているか把握していきます。対策の一つは、厚物教材の進捗計画に沿って継続的に復習をすることです。各教科で曜日を決めて提出してもらい、厚物教材をチェックしていますが、やりっぱなしになっている感が拭えません。時間を上手に使い、じっくり学習に取り組んでほしいと思っています。自分の理解が不十分なところは、教科書等を見直したり、ノートに整理したり、また間違えた問題を何度も解き直しをしたりする等、丁寧な学習を積み重ねていくことで、着実に学力はついていくはずです。そして、すでにご案内させていただいている通り6月19日(月)、高校の教員等が北高の特色やコース等を説明する会を開きます。万障お繰り合わせの上、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

4. 1学期末テスト

先月中旬テストが終わったところではありますが、2度目の定期テストがやってきます。テスト発表が6月14日(水)で、6月21日(水)から3日間で実施します。「学習の診断」が終わっても、息をつく暇もありませんが、精一杯持てる力を発揮してほしいと思います。

6月21日(水)			6月22日(木)			6月23日(金)		
①音楽	②国語	③技家	①英語	②保体	③理科	①社会	②美術	③数学